



第四十三号

「年末年始」

メルマガnoichi43号。今月のテーマは「年末年始」。
年末年始、私たち日本人は験をかついで、新年の吉兆をおしはかります。
何をするかは、その地方、家庭、個人によってさまざまのようです。
その一例としてご紹介したいのが、
家元ファミリーと奥田雅楽之一が過ごす「年末年始」です。

平成二十六年も早や年の瀬となりました。十二月に入ると巷はたちまちクリスマス一色に染まり、踊りたくなるような音楽が聞こえ、イルミネーションもひと際綺麗に、ここ日本には宗教の概念を越えた独自のクリスマスが存在します。私の姉は自宮のパン屋さんですが、クリスマス当日はフランスパンが飛ぶように売れるのだそうで、思い返してみると私の子供の頃も、クリスマス食は特別でした。いつの頃からなのか、サンタクロースに夢を与えてもらった子供たちが大人になり、クリスマスに大人のロマンを要求するようになったのかも知れません。嘗て、私にもサンタクロースがいました。期待に応え続けた優秀なサンタさんは、私が小学校高学年になったある日パツタリ来てくれなくなり、立ち直れない程のショックを受けた覚えがあります。あくまでも、私の場合：の一例ですので、良い子のみなさんは参考にしないで下さい。年末年始といえば、私の一族は毎年恒例の行事を行います。十二月三十日に沢山の人が祖父母の自宅に集まり「すき焼きパーティー」を賑やかにを行います。この習慣が、いつ、どのような経緯で始まったのかは正直なところ私にもよくわかりませんが、少なくとも私が物心ついた頃から今日までこの日を「すき焼きパーティー」以外の日程で過ごした記憶はありません。

「そもそも、十二月三十日は父方の祖母（唯是家）が住んでいた埼玉県飯能市で『すき焼き』を食べていた。三十一日は母方の一族（中島家）のところで過ごし、二日にわたって年取りをしていた」と説明してくれるのは私の母。あの「すき焼き」には「年取り」の験担ぎがあるようでした。三十一日の大晦日は、まず夕方に深大寺へ行つて熱いお蕎麦をたぐり（事実上これが我が家の年越し蕎麦）、身体を温めてから、境内に一年の感謝の気持ちを入れて参拝します。そのあと楽焼き屋さんに向き、各自がオリジナリティ溢れる陶器を作ったり、お年賀にする陶器を買ったり、納得がいくまで用を足して、そのあとは自宅に戻って静かに年明けを待つ



が恒例です。明けて元旦は、一族が祖父母の家に集まり御挨拶。初仕事は山積みになった祖父母の年賀状の仕上げです。堆く積み上げられた年賀状は祖父母の交流の広さと社会的立場を物語っているようで、子供心に誇らしく思ったものです。元旦はNHKテレビで祖母が演奏をするので、それを家族で視聴します。そういう時はたいがい祖父が祖母に向かって一言二言、なにか小言を言いますが、祖母はあまり耳を貸さないで、その様子を子孫があなたかく見守ってあげています。まだまだ正月の行事は続きます。三日は私の妹ウララ

の誕生日で初の外食をします。意外に思われるかもしれませんが、家族が全員揃って食事をするのは、一年で一回、この日だけです。普段はそれぞれ仕事の都合があつて、家族がその時々組み合わせで一緒に食事をしますが、全員集合の実はこの日だけなんです。翌四日は親愛なる祖母の誕生日です。祖母を祝福しようと全国各地から沢山のお客様が訪れます。祖母の誕生日には決まって男たちが特製ハンバーグを作る習わしがあつて、秘伝レシピに従い、祖母とお客様のために数百個のハンバーグをこねます。レシピの一部を暴露しま

すと、この特性ハンバーグは牛一〇〇%の赤身部分のみ使用で、玉ねぎやパン粉などのつなぎは一切使用しません。食べる時は醬油をかけて食べること、肉の旨みが引き立ちます。言うほどの「秘伝」でもないのですが、あの時にしか食べられない特別な味であることの事実があります。五日は「亥（イノシシ）会」という亥年生まれの人たちが集う合会があります。大正十二年生まれの亥年である祖父が発起人となっています。我が業界の主要人物には意外にも「亥年」が多く、最年長九十一歳の祖父から子供の果てまで「亥年」の人であれば参加することができます。ちなみに私は心優しい「未（ひつじ）年」です。正月も七日前後になりますと、正派邦楽会館で「家元年賀式」（メルマガnoichi第二十号参照）が執り行われます。これが年始最初の公式行事となり、正派家元が一派の重鎮に接見し、事務局、道場、合奏団、音楽院などなど、この年賀式を皮切りに正派会館における業務が一斉にスタートします。

以上、簡単ではございますが私めの年末年始について述べ



Illustration: morimoe

てみました。尚、来たる平成二十七年元旦に（株）NYCの設立一周年に伴い「NYC新年賀式」を開催致します。大したおもてなしも出来ませんが、初詣がてら弊社にお立ち寄り頂けましたら幸いです。本年もメルマガnoichiを御高覧頂き誠にありがとうございます。毎月の反省点を踏まえ、子どものメルマガジンが邦楽普及のお手伝いとなれますよう、来年も一生懸命製作して参りたいと思います。読書様あつてのメルマガジン。みなみなさまに心から感謝を申し上げ、平成二十六年結びのメルマガnoichiとさせていただきます。どうぞ、よいお年をお迎え下さいませ。

「N.Y.C.新年賀式」

日：平成27年元旦
時間：13時～17時
於：（株）N.Y.C. 半蔵門5番出口すぐ（詳細はメールにてお問い合わせ下さい）

※先着30名様に心ばかりのお年賀をお渡しさせていただきます

◎あとかぎ◎

クリスマスも終わったからツリーを早く片付けないと娘が行き遅れるなんて思ってしまうけれど、それは桃の節句だし、外国ではツリーはすぐには片付けない。ルーズな家では正月を超えてもそのままとか。そういえば外国では日本ほど正月が重要ではないから無理もないのかもしれない。

日本では正月を厳粛な気持ちで迎えるように、キリスト教の国ではクリスマスを静かに迎えて、家族と過ごすらしい。恋人と一緒になんていうのはきつとパチあたりに違いないのだが、日本人にとってクリスマスはイベントに過ぎない。

ここ数年、なぜかハロウィンも定着して来た。なぜ急にそうなったのかは分からないけれど、ハロウィンの夜の渋谷などは大変な騒ぎになっている。昔、百貨店の仕事をしていてハロウィンを普及しようとかキャンペーンをした頃が懐かしい。あの頃はまだバブル真っ最中だったのに、まったく盛り上がりはなかった。ハロウィンで仮装して、クリスマスを恋人と過ごして、新年はお寺か神社に行ってお参りする。2月にはバレンタインもある。日本人って本当に節操がなくて、イベント好きな人種だ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

